

令和5年11月

令和5年度 外部評価報告書

外部評価委員会

I. 令和5年度 外部評価委員会 委員

委員長	村澤 昌崇	広島大学 教授 高等教育研究開発センター 副センター長
	青木 靖樹	広島県立宮島工業高等学校 校長
	安達 誠	復建調査設計株式会社 執行役員 事業推進本部 副本部長 社会デザイン創発センター センター長
	石橋 憲吾	株式会社今仙電機製作所 電子事業本部 執行役員
	平賀 崇史	広島県商工労働局 産業人材課 課長

II. 評価方法及び項目

広島工業大学から依頼のあった以下の7つの項目について、「自己点検・評価報告書 第10巻(2022)」及びその他資料、説明会での質疑応答等から評価を行った。

[評価項目]

- (1)学修支援
- (2)キャリア支援
- (3)学生の意見・要望への対応
- (4)学修成果の点検・評価
- (5)HIT.E ▶2024 の評価
- (6)内部質保証体制について
- (7) 自己点検・評価報告書に関するその他評価

Ⅲ. 総評

【評価結果】：各委員の評価を踏まえ、総評として「各種優れた取り組みを行っており、高く評価できる」と判断される。今後の課題として、各種取り組みや改革に関する成果の提示、効果検証に関する仕組み作りを行うことを通じ、学生を始めとしたステークホルダー諸氏にとって実効性があり効果を実感できる教育およびその支援体制の構築を、不断の努力により継続していくことが求められる。

【各項目に関する評価の概要】

- (1) 学修支援について:独自のポートフォリオシステム HITPO の導入と活用、個別指導やチューター制度が有効に機能している。障害のある学生、中途退学・休学留年、女性への配慮ある支援がある。今後の課題として、女性の学生へのさらなる配慮、全国平均を上回る退学者対策、各種取り組み・改革の成果や結果に関する具体的提示が求められる。
- (2) キャリア支援について:社会人セミナー、企業見学、インターンシップ等を通じて学生のスキル向上やキャリア意識醸成を図り、高就職率維持へと繋げている点は高く評価できる。課題として、成果・結果の記載、企業との連携による学生へのアシスト、職業倫理教育、またインターンシップ参加による授業軽視への対策が求められる。
- (3) 学生への意見・要望への対応について:進級、GPA の低い学生に対する指導、心身の健康へのサポート、学生の意見収集等は適切に行われている。課題として、意見の集約・活用方法の明確化、学長とのオフィスアワーの有効性の検討、学生からの要望への大学側の対応に対する学生の反応等、結果に関する検証や提示が求められる。
- (4) 学修成果の点検・評価:学生アンケート・学習履歴の活用による授業改善、HITPO 等を通じての学生自身による学修状況の点検評価、学生へのフィードバック等、多角的な取り組みは高く評価できる。今後の課題として、満足度等の経年変化の可視化と分析への着手、満足度の低いごく一部授業に関する工夫や改善が期待される。
- (5) HIT.E ▶2024 の評価：学生の課題対応力や思考力等の社会で必要とされる能力強化に繋がる内容であり、SDGs や地域課題に関連した内容も提供している点も含め高く評価される。他方「実験」「実習」に留まっており社会を知る「実践」への転換が必要であり、いくつかの取組間の関係の整理や、取組に関する学部学科を超えた波及が求められる。
- (6) 内部質保証体制について:内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会を設置し、外部評価やエビデンスに基づいた評価を行い、PDCA サイクルによる教育改善への取り組みが高く評価される。課題としては、内部質保証のメンバー構成、組織間の責任体制が不明瞭である点、学生・保護者からの要望を一層反映させる必要がある点等が指摘される。
- (7) 自己点検・評価報告書に関するその他評価:外部評価を元に教育・研究の改善に鋭意反映しようと試みる点、エビデンスベースの点検評価である点が高く評価できる。今後の課題として、結果・成果の記述と見える化の拡充、評価基準の定義の明確化が求められる。